いきいきシルバーライフ

親子同居における住居形態別比較調査

はじめに

さまざまな社会状況や価値観の変化などを背景に、同居のあり方も変わってきています。旭化成工業（株）ではよりよい同居生活を探るために、昭和48年（1973年）以来、各種の調査活動を続けてきました。その成果を、シンポジウム、セミナー、機関誌の発行などを通じて発表してまいりました。

今回は、親子同居を実践している親世帯のご主人と奥様にアンケートを実施しました。調査によって、子世帯との良い関係を保ちながらいきいきとシルバーライフを謳歌している姿と、住まいの形態によって違う暮らしぶりが浮き彫りになりました。

目　次

■プロフィール ……1
首都圏で親子同居を実践中の親世帯、504人のご主人・奥様に伺いました。

■調査結果の要約 ……2
期待と不安のなかで、満足度の高い親子同居。
自立心旺盛な完全分離派、中庸の共用派、気がねもバネに積極的なべったり派。

■子世帯との同居にあたって期待したこと ……4
同居への期待が大きいべったり派。独立精神旺盛な二世帯派。

■同居後の満足度 ……5
約8割以上が「期待どおり」。高い満足は完全分離派の
ご主人とべったり派の奥様。

■子世帯との同居にあたって不安だったこと ……6
同居に対する不安が少ない完全分離派、
さまざまな不自由が気にかかるべったり派。

■不自由さについての同居後の状態 ……7
“案ずるより産むが易し”だった親子同居。

■家事の分担 ……8
ご主人の活躍分野は「庭や住まいの手入れ」「ゴミ出し」「風呂掃除」
など。家事全般をテキパキこなす完全分離派の奥様。

■負担に感じている家事 ……9
4割の皆様は家事を負担に感じていない様子。

■主な生活空間 ……10
べったり派に多い自室型。家事を切り盛りする完全分離派の
奥様はダイニングで一息。

■交流頻度 ……11
「同居の子供」と適度な距離を置く完全分離派。
べったり派は近隣との交流が多数。

■外出頻度 ……12
外出は分離度の高い方が頻繁。奥様はカルチャー型、
ご主人はスポーツ型。

■夫婦一緒の行動 ……14
夫婦一緒に子供や親戚と交流。二世帯派で一緒の行動が目立ちます。

■自由時間の過ごし方 ……15
ご主人のベスト3は「園芸」「読書」「休息」。
奥様のベスト3は「片づけ」「休息」「園芸」。

■退職後の生活の変化 ……16
「毎日が日曜日」を楽しむご主人。夫婦そろっての活動が増える奥様。

■生活のなかで充実しているもの、不十分なもの ……18
充実しているのは「住まい」「子や孫との交流」「生活環境」「食生活」。

■日常生活における積極性 ……20
ご主人はべったり派、奥様は完全分離派が積極的。

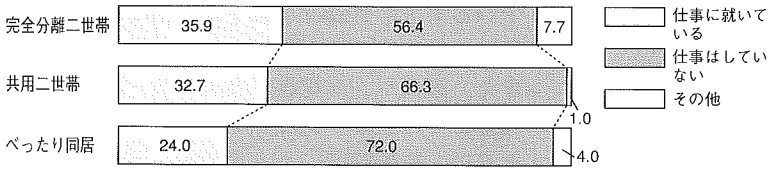
プロフィール

首都圏で親子同居を実践中の親世帯、504人のご主人・奥様に伺いました。

●住居形態（ご主人の回答）

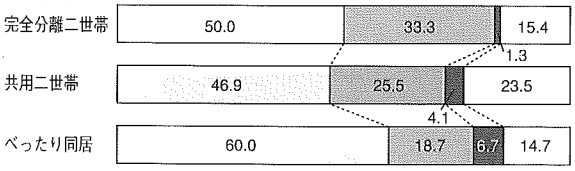
台所・浴室・玄関が独立しているものを完全分離二世帯、台所は独立し玄関・浴室などを共用しているものを共用二世帯、基本的に一緒で寝室だけが別をべったり同居と呼んでいます。

●ご主人の就業状態（ご主人の回答）

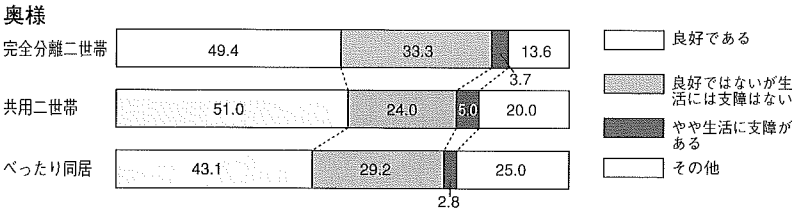


●健康状態

ご主人

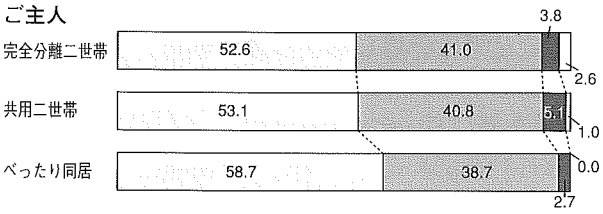


奥様

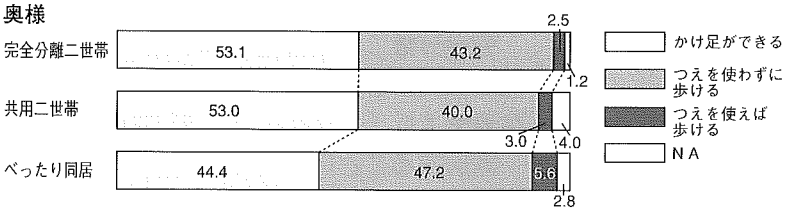


●歩行能力

ご主人

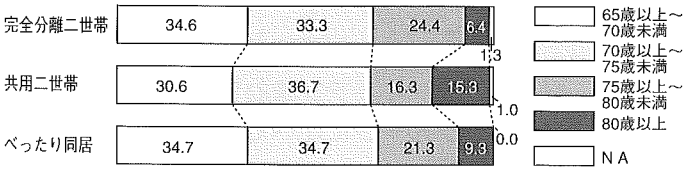


奥様

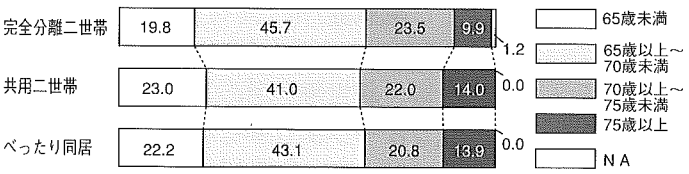


●年　齢

ご主人

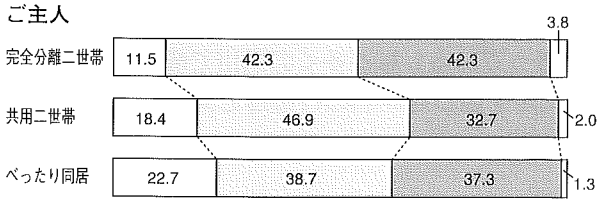


奥様

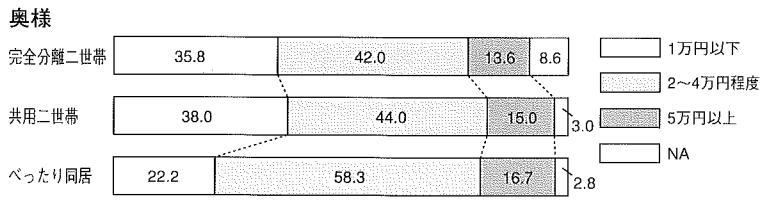


●おこづかい額

ご主人



奥様



調査の概要

1．調査名称：いきいきシルバーライフ
　　―親子同居における住居形態別比較調査―

2．調査目的：
同居中の高齢者の暮らしや子世帯とのかかわり方などの実態と意識を把握し、同居形態による相違を明らかにしながら、高齢者の望ましい住まいのあり方を提案する資料とする。

3．調査対象：
東京、神奈川、千葉、埼玉に居住する子世帯と同居中のヘーベルハウス居住者で1993～94年入居者（入居１～２年目）の夫65歳以上の親世帯夫婦

4．調査期間：1995年７月７日～７月25日

5．調査方法：往復郵便法

6．サンプル：有効回答504人 ご主人251人、奥様253人
（配布数1200人600 組 回収率42.0%）

調査結果の要約

期待と不安のなかで、満足度の高い親子同居。自立心旺盛の完全分離派、中庸の共用派、気がねも

調査によると、子世帯と同居中の親世帯のみなさまは、いきいきとシルバーライフを楽しんでいるように見受けられます。例えば健康状態は「良好である」が約半数。歩行能力も「かけ足ができる」が約半数でした。
また、趣味や、子世帯・友人知人・近隣との交流、夫婦のコミュニケーションと、積極的に行動している様子が伺えます。
さらに、住居形態によって活動状況や子世帯とのかかわりが異なっていました。では、その違いを見てみましょう。

完全分離二世帯

子世帯と距離を保ちながら適度な交流。日常生活や外出は気ままに過ごしています。

完全分離二世帯住宅を建てようとする人は、子世帯と生活は分離しながら適度な交流を志向。普段の生活が分離しているだけに、期待は家事や経済の協力などの実利的な要素より「子や孫との交流」など精神的な要素に重点を置いています。

同居することによって「多少“不自由”になるかもしれない」ことに関しては全体的に少ない中で、完全分離派で目立つのは「孫の世話で負担が重くなる」「日常的な気遣いが増える」など。自立意識が強いだけに、自分たちの生活を乱されたくないという気持ちが強いからでしょうか。

家事協力については、子世帯との分担が他のグループより少ないかわりに、「買い物」「風呂の掃除」「住まいの手入れ」などでご主人の協力が目立ちます。普段過ごす場所は、親世帯専用のスペースになっているリビング、ダイニング・キッチンまわりが他グループより多くなっています。同居の子世帯との交流は他グループに比べて最も低くなっていますが、独立した子供との交流も対等にしている様子。

外出頻度は、最も高いグループ。デパートや繁華街での食事など、気がねなく“ちょっと遠くまで”出かけることができそうです。

生活に対する積極性を見ると、奥様は「いつもおいしく食事ができる」「政治や社会の動きに関心がある」「身だしなみ、おしゃれに気を遣っている」など多くの項目で高い数字を示しています。子世帯からの独立と適度な交流を図りながらのびのびと同居生活を楽しんでいるようです。

バネにべったり派。

共用二世帯

子世帯への気遣いもほどほどに、
ご主人はアウトドア、奥様は近所へお散歩。

生活は分離したいけれど、ひとつの家族としてのまとまりも欲しい…台所は独立しながらも、玄関・浴室などを共用する共用二世帯住宅。交流を楽しんだり助け合ったりという同居のよい面と、気遣いの面と両方が見られます。独立した生活を望む気持ちが強いにもかかわらず、浴室・玄関など共用部分があるために気遣いが生じるのでしょうか。

しかし、同居前に「生活時間やリズムが違う」「生活全般に対する価値観が違う」などの心配があったわりには“案ずるより産むが易し”だったのは他のグループと同様。

ご主人の趣味は、「スポーツ」「ハイキング」「ドライブ」と、他グループよりアウトドアタイプの方が多くみられます。

また、ご夫婦一緒の行動は、このグループが最も目立ちました。

べったり同居

子世帯への気遣いの中にも、
近くへの外出や近所づきあいに積極的。

基本的に一緒で寝室だけが別のべったり同居。融合型の住まいを志向するだけに同居への期待が最も大きいグループです、食事の世話、生活費の負担など物理的な面での期待が、完全分離二世帯や共用二世帯など生活を分離しようとする二世帯派より高くなっています。事前の心配も他グループより高く、同居後も多少不自由さを感じているのも事実ですが、奥様については「期待していたとおり」という高い評価が最も多くなっています。

家事は「子世帯との分担」が3グループの中で最も多いのが特徴。負担に感じている家事は子世帯に協力してもらっているようです。

普段過ごす場所は、子世帯に遠慮してか、自室となっている「寝室」の場合が他グループと比べ多くなっていました。

同居の子世帯との交流は最も多く、また出かけるのは「近所の人たちとの交流」が目立ち、地域との交流を大切にしている様子です。

外出頻度は他グループより全体にやや少ないものの、「町内会・老人クラブ」などには良く出かけ、ここでも地域とのつながりを大切にしている様子が伺えます。

生活に対する積極性は、完全分離派では奥様が積極的だったのと一転してべったり派ではご主人が「レジャー・趣味などを楽しんでいる」「体力には自信がある」「身だしなみ、おしゃれに気を遣っている」などたくさんの項目に積極性を見せています。子や孫と一緒に生活することによって、良い刺激を受けているように感じられます。

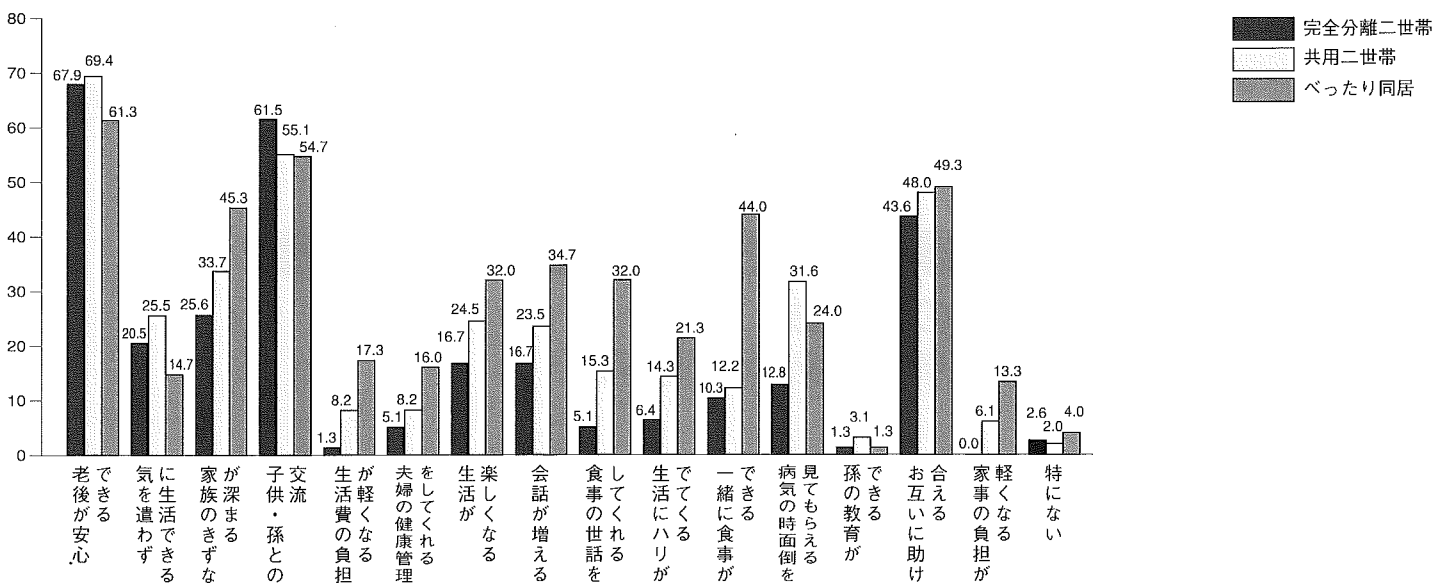
子世帯との同居にあたって期待したこと

同居への期待が大きいべったり派。独立精神旺盛な二世帯派。

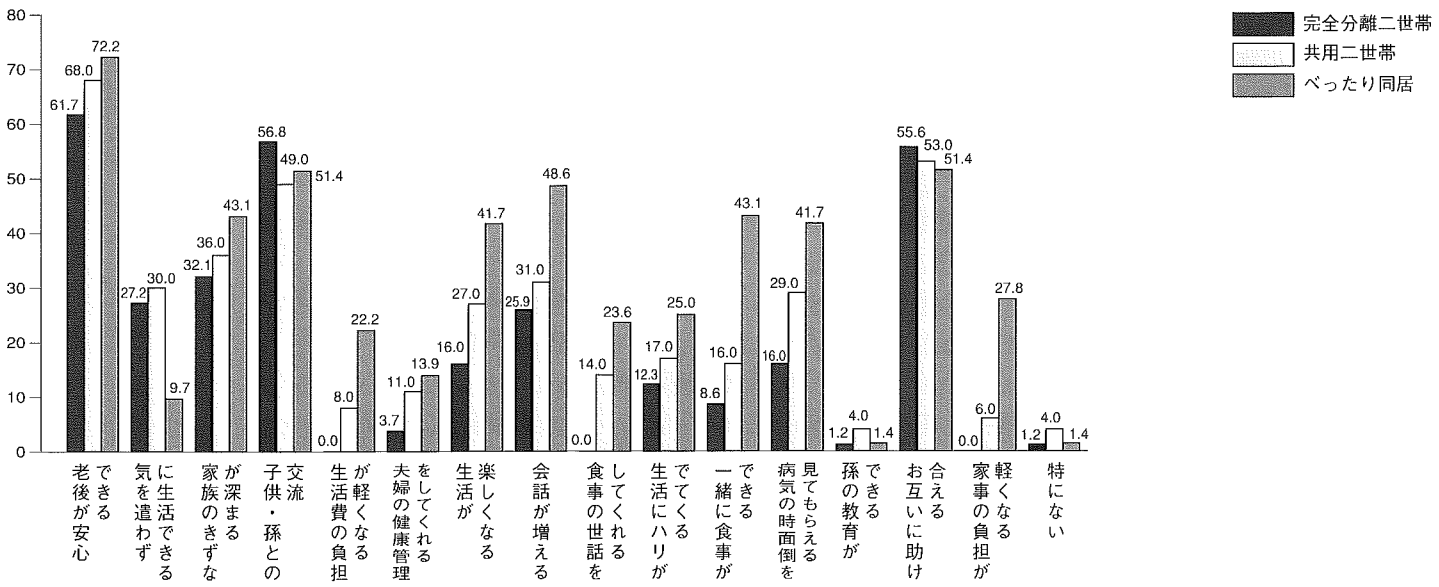
子世帯との同居に抱いた期待で最も大きかったのは、ご主人・奥様とも「老後が安心できる」で、6～7割。「お互いに助けあえる」「子や孫との交流」「家族のきずなが深まる」などがこれに続いています。全般に完全分離派より共用派が、共用派よりべったり派が、精神面でも現実面でも同居への期待度が高くなっています。また、二世帯派の方がべったり派より「気を遣わずに生活できる」が高く、独立の保てる二世帯住宅への期待が伺えます。
それぞれの生活を重んじようとする二世帯住宅派ですが、子や孫との交流についてはご主人・奥様ともにポイントが高く、一定の距離を保ちながらも交流に期待している様子。また、生活費の負担や病気の面倒といった現実面より、お互いの助け合いや家族のきずなといった精神面に重きをおいていることがわかります。

Q 子世帯と同居の前に、“よいこと”として何を期待していましたか？
（複数回答）

ご主人



奥様

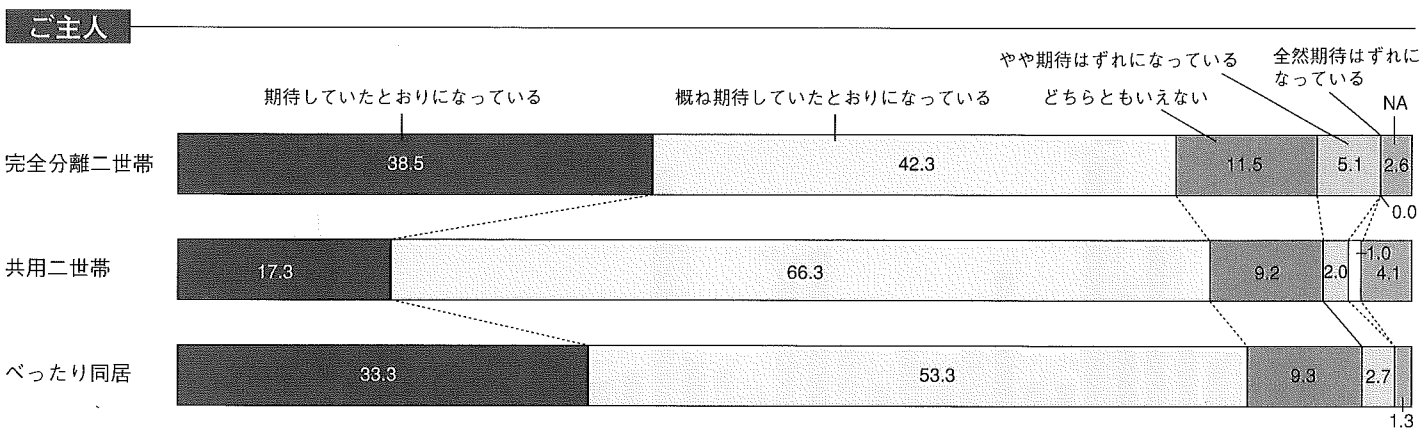


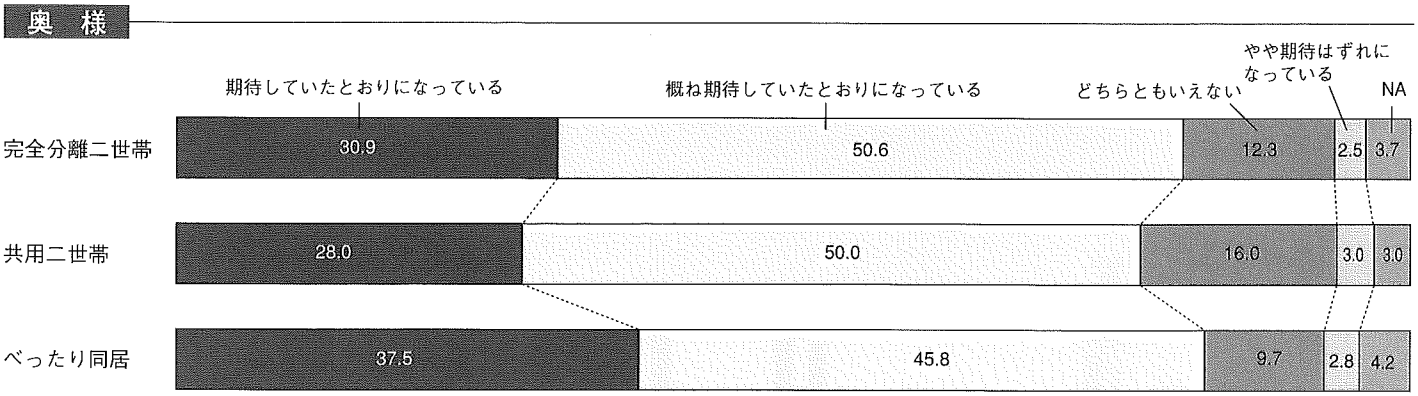
同居後の満足度

約8割が「期待どおり」。高い満足は完全分離派のご主人とべったり派の奥様。

子世帯との同居に抱いた期待に対して同居後の感想を尋ねてみました。すると、約８割が満足を示しています。中でも「期待どおり」と高い満足を示したのは、ご主人では完全分離派、奥様ではべったり派に多くなっています。共用派では「期待どおり」が少なくなっています。独立した生活を望んでいる気持ちが強いにもかかわらず、玄関・浴室など共用部分があるためでしょうか。
べったりは派、以前から同居していた方も多いため、同居のメリットがわかっているので、「期待どおり」が高くなっていると思われます。

Q 実際に同居してみて、期待した“よいこと”はどのような状態になりましたか？



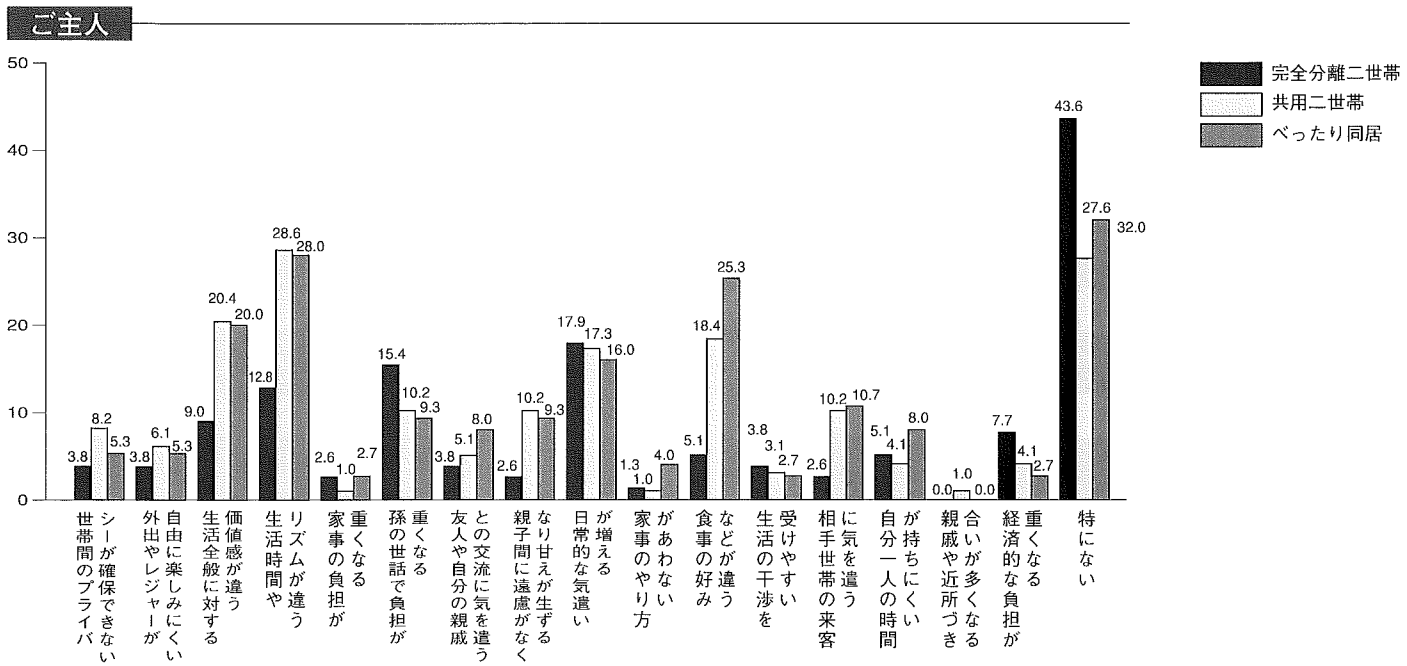


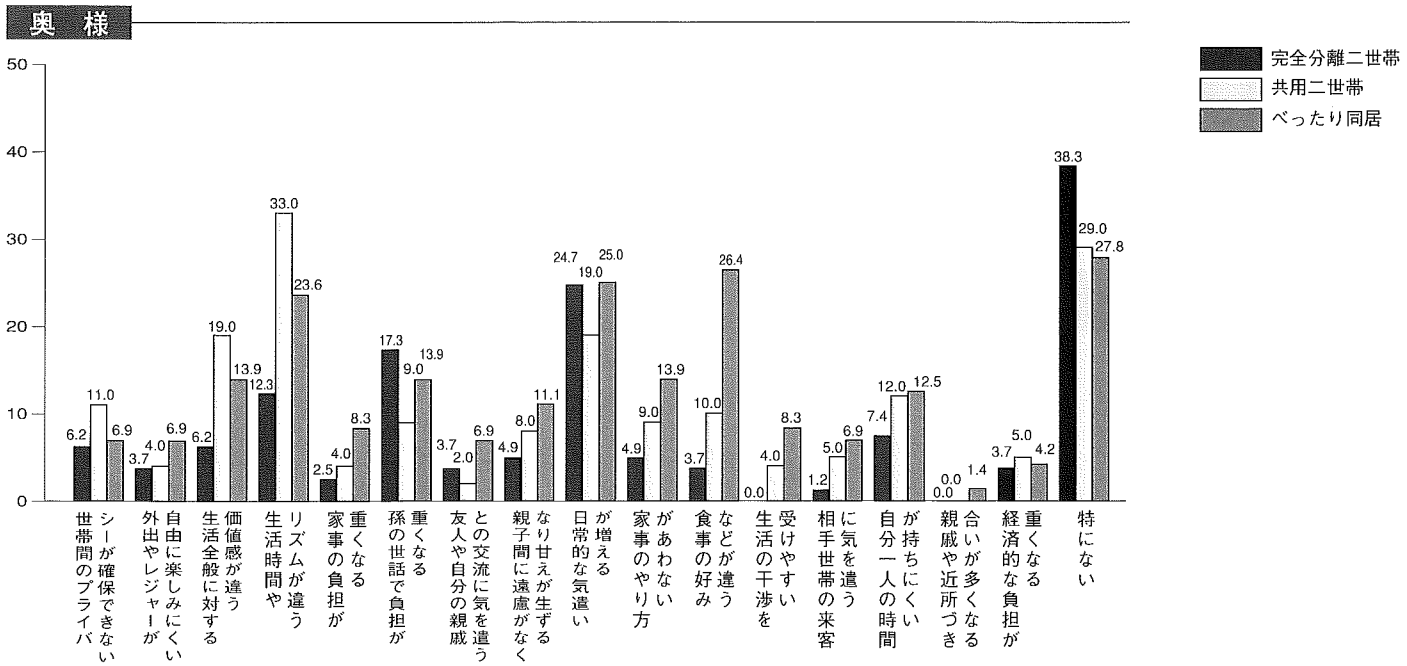
子世帯との同居にあたって不安だったこと

同居に対する不安が少ない完全分離派、さまざまな不自由が気にかかるべったり派。

どのタイプでも３～４割は「特にない」と答え、事前の不安は少なかったようです。特に完全分離派が少ないのが特徴です。
また、共用派では「生活時間やリズムが違う」「生活全般に対する価値観が違う」などの項目で高ポイント。意識の上では独立した生活を重んじているのに、共用スペースがあるためこのような点に不安を感じているのでしょう。完全分離派では心配な項目が少ないものの、「孫の世話で負担が重くなる」「日常的な気遣いが増える」に回答が集中しています。べったり派では特に奥様で「食事の好みなどが違う」や「家事のやり方があわない」「日常的な気遣いが増える」など全般的に不安が高くなっています。

Q 同居することによって多少は“不自由”になるかもしれないと思っていたのはどんなことでしたか？（複数回答）



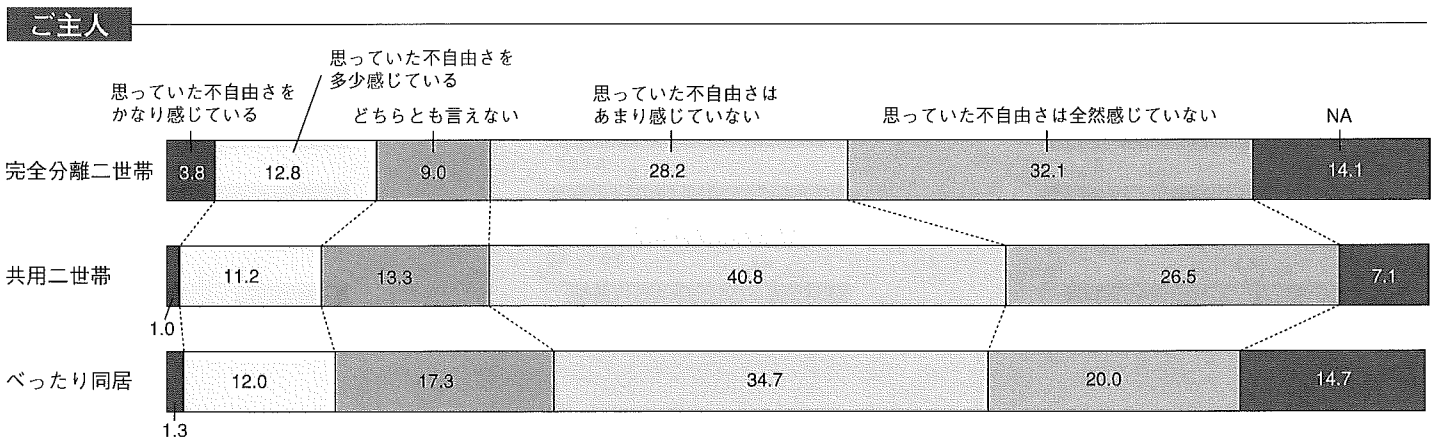


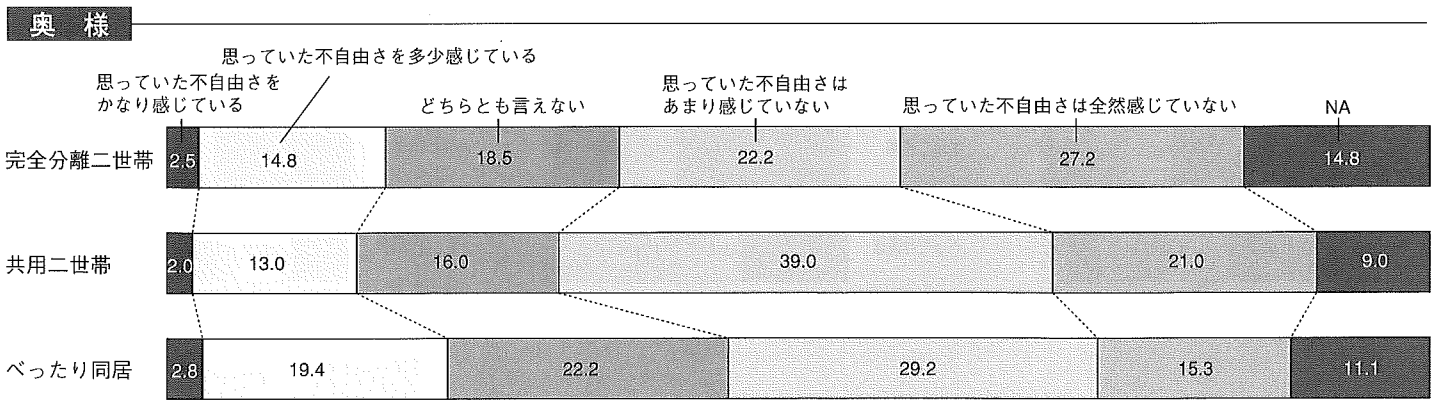
不自由さについての同居後の状態

“案ずるより産むが易し”だった親子同居。

実際に同居してみると、“不自由”になるかもしれないと思っていたことは取り越し苦労だったようです。不自由さを「あまり感じていない」「全然感じていない」を合わせれば、「感じていない」人はご主人で約6割、奥様で約5割。ご主人の満足度の方が高くなっています。
住まいの分離度が高いほど「ぜんぜん感じていない」人は多く、ご主人・奥様共に完全分離派に最も多くなっています。「あまり感じていない」人まで含めると、不安をかなり感じていたはずの共用派が最も不自由を感じていません。

Q 実際に同居してみて、“不自由”になるかもしれないと思っていたことは、どんな状態になりましたか？（複数回答）

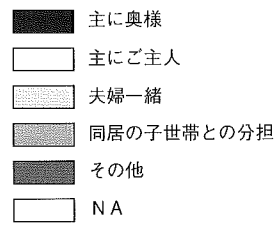




家事の分担

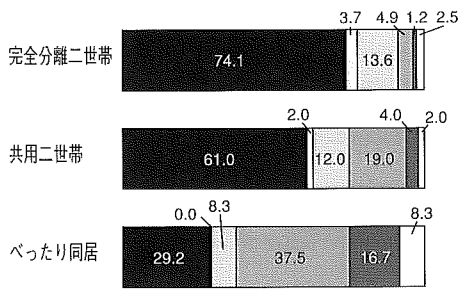
ご主人の活躍分野は「庭や住まいの手入れ」「ゴミ出し」「風呂掃除」など。家事全般をテキパキこなす完全分離派の奥様。

べったり同居、共用二世帯、完全分離の順で子世帯との分担が少なくなっており、分離度が高いほど自分たちの世帯だけで家事をこなしていることがわかります。その分、ご主人の家事協力が増えているようです。
全般的にご主人の参加が多い家事は，「庭の手入れ」、「住まいの手入れ」、「ゴミ出し」、「風呂の掃除」などでした。生活のすべてが子世帯と分離している完全分離派の奥様は、家事全般をこなしています。

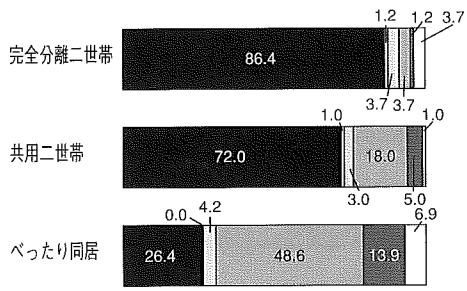


Q 家事の役割分担は、どのようになさっていますか？
（奥様の回答）

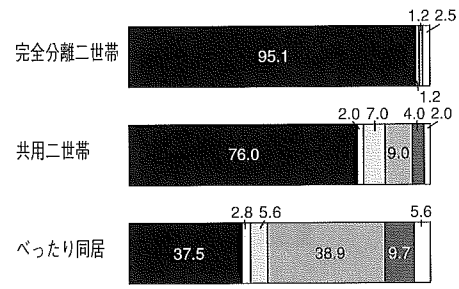
●食料、日用品の買い物



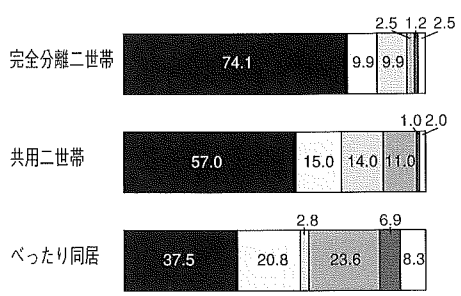
●夕食の準備・後かたづけ



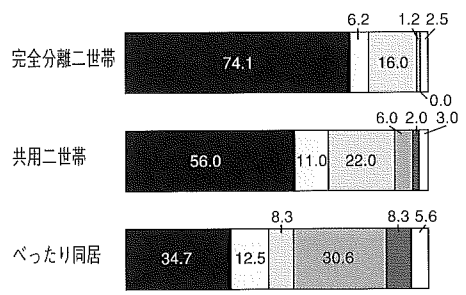
●洗　濯



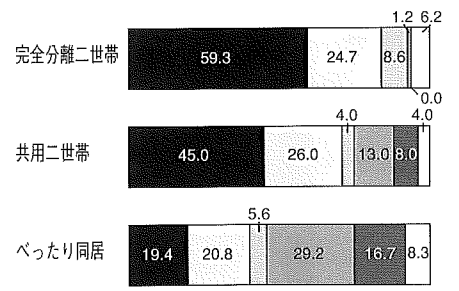
●ふとん干し、取り入れ



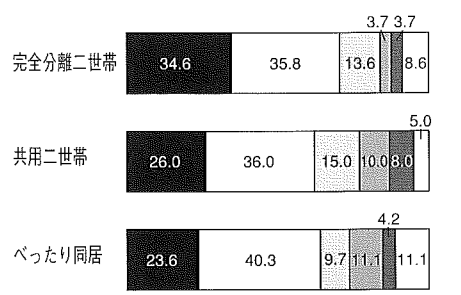
●部屋の掃除、かたづけ



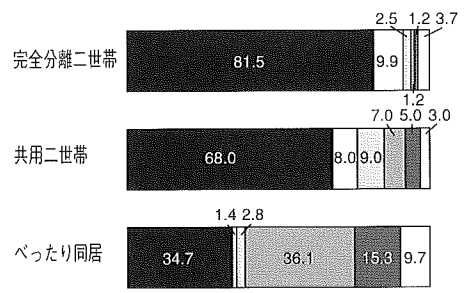
●風呂の掃除、準備



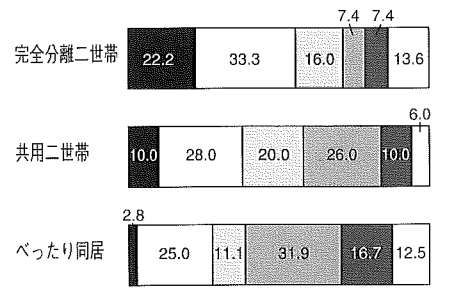
●庭の手入れ



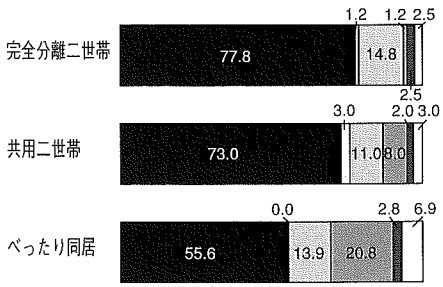
●日常の家計管理



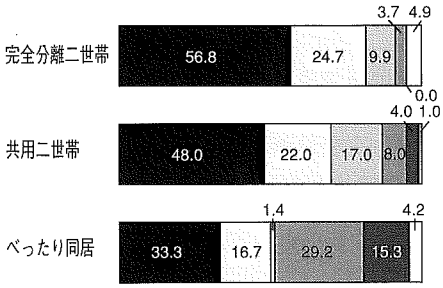
●住まいの手入れ、修理



●季節物の入れ替え



●ゴミ出し

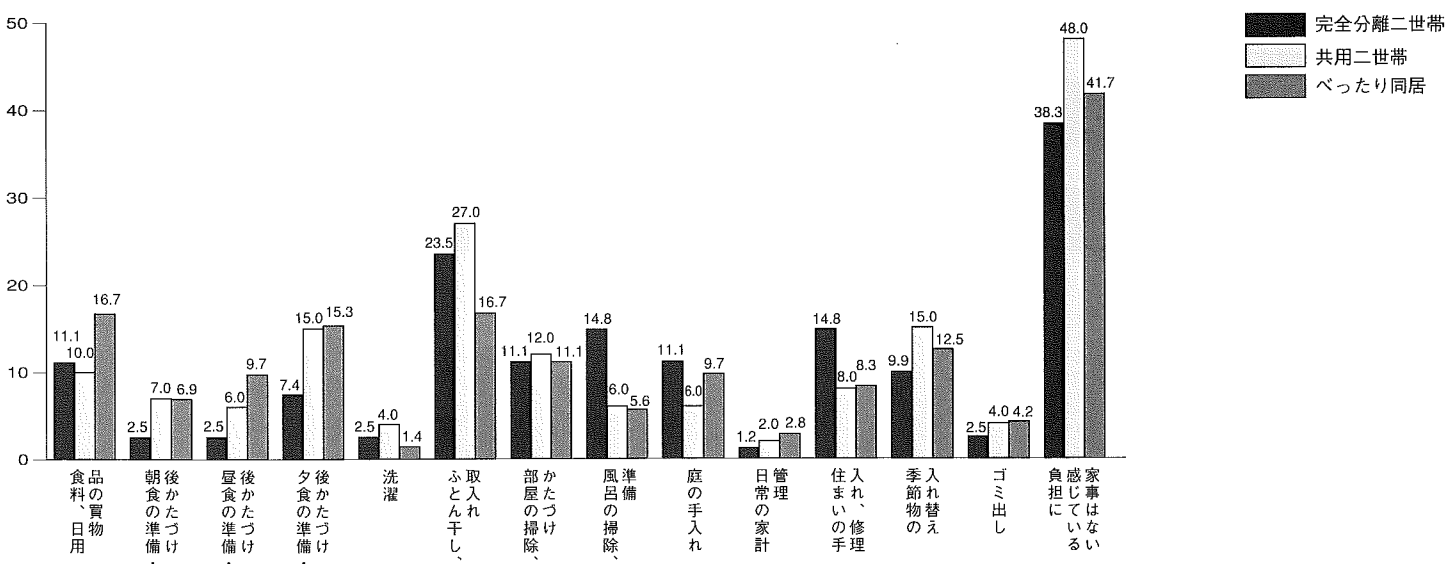


負担に感じている家事

4割の皆様は家事を負担に感じていない様子。

「負担を感じている家事はない」とお答えの奥様が約4割いらっしゃいました。
そのなかで奥様たちが少々負担に感じている家事は、「ふとん干し」、「日用品の買い物」、「季節物の入れ替え」、「部屋の掃除・片づけ」などの家事や「夕食の準備・片づけ」などでした。
二世帯派の奥様は実際の家事負担が明らかに大きいはずですが、気持ちの上での負担は全般にあまり大きく感じていないようです。

Q 少々負担に感じている家事はどんなものですか？（奥様の回答・複数回答）

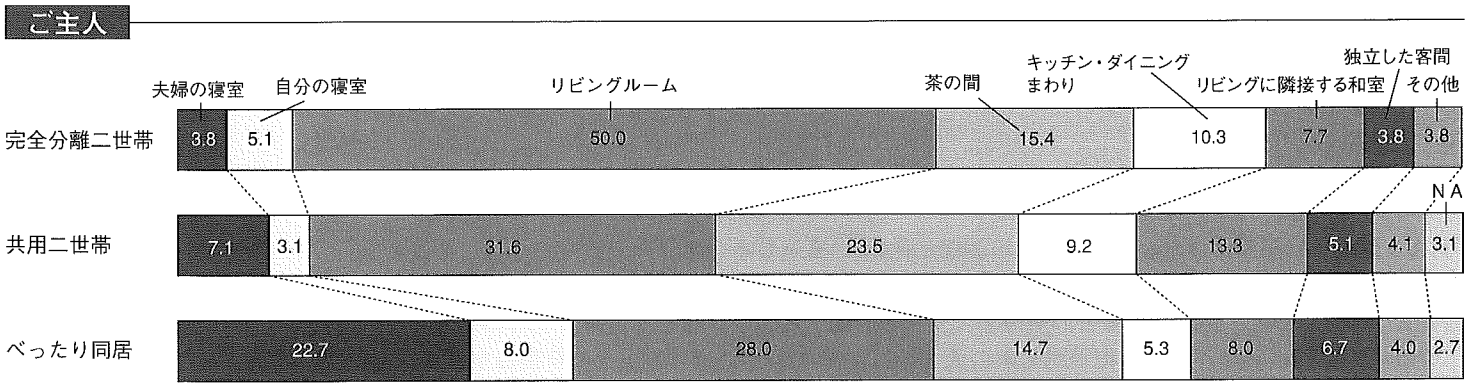


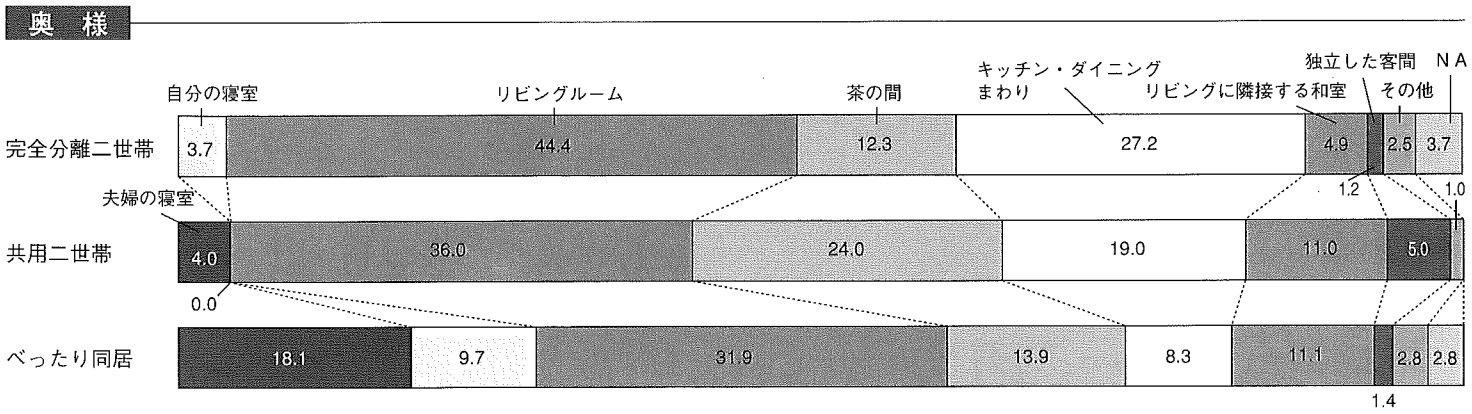
主な生活空間

べったり派に多い自室型。家事を切り盛りする完全分離派の奥様はダイニングで一息。

全体に最も多かったのは、やはり「リビング」。2位以下には、ご主人では「茶の間」「夫婦の寝室」「リビングに隣接する和室」が、奥様では「キッチン・ダイニングまわり」「茶の間」「リビングに隣接する和室」が続きます。
ここでは、同居の形態別による生活スタイルの違いがはっきりあらわれています。べったり派では子世帯への気がねからか夫婦ともに「リビング」の割合が他に比べて少なく、その分自室として使われていると思われる「寝室」型が多くなっています。一方、完全分離派の奥様は、キッチン・ダイニングまわりで過ごす人がべったり派の奥様の3倍以上。共用派の奥様の1.4倍もいます。それにつられてかご主人もキッチンまわり派が若干多くなっています。

Q ふだん家で過ごす時は、主にどの場所にいることが多いですか？



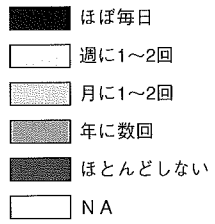


交流頻度

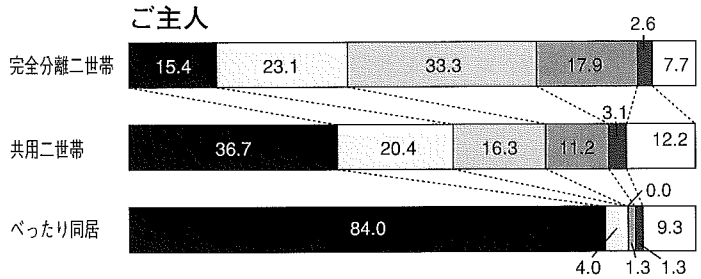
「同居の子供」と適度な距離を置く完全分離派。べったり派は近隣との交流が多数。

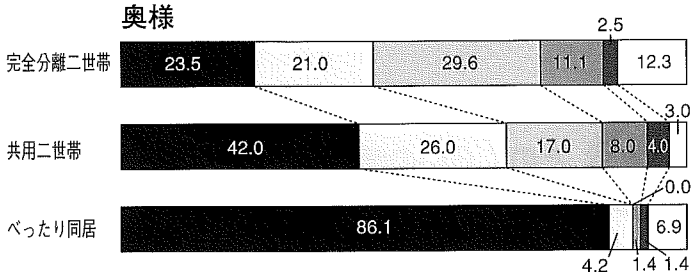
「同居の子供とのだんらん」は分離度が高くなるにしたがって少なくなり、極端に低いのは完全分離派。奥様の回答をみると、完全分離派は逆に気がねなく外出・接客できるためか「独立した子供」とは適度に交流。二世帯派の方が、同居・非同居にかかわらず子世帯と対等に交流しているようです。
べったり派は「近所の人たちとの交流」が他に比べ多く、地域のつながりを大切にしている様子が伺えます。

ご家族・親戚や知人との交流はどのくらいの頻度でなさっていますか？

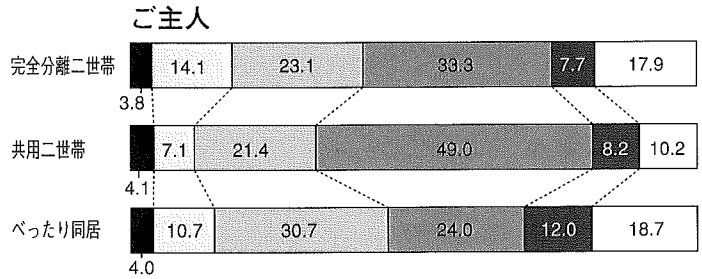


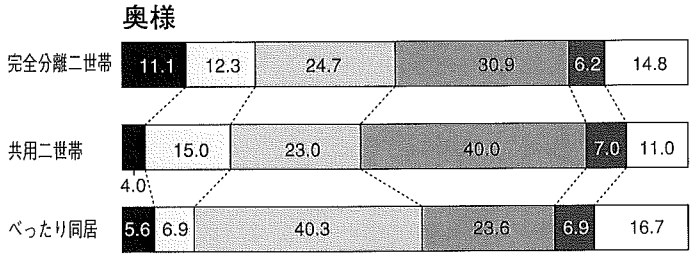
●同居の子世帯との団らん



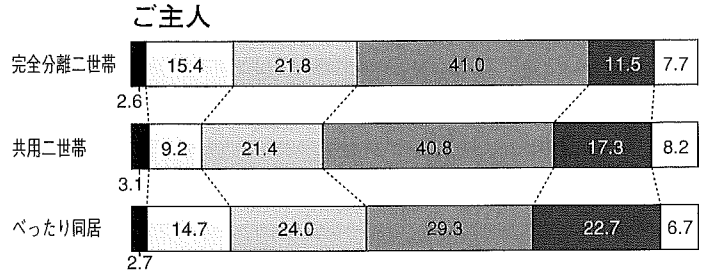


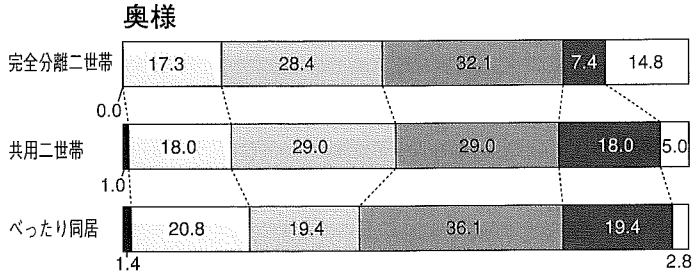
●独立した息子、娘との交流



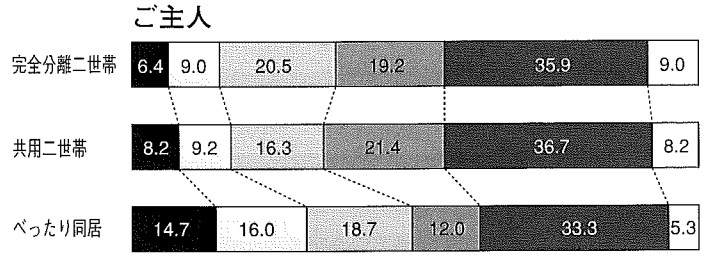


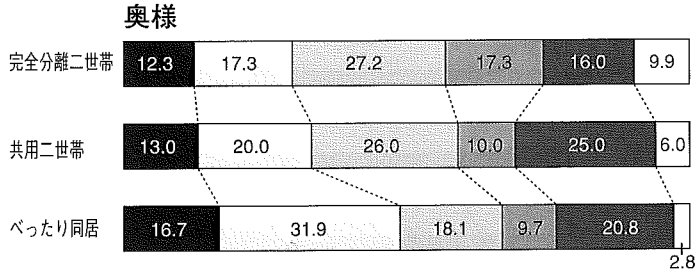
●友人、知人との交流





●近所の人たちとの交流





外出頻度

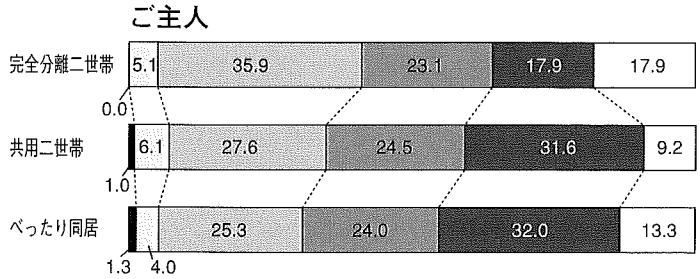
外出は分離度の高い方が頻繁。奥様はカルチャー型、ご主人はスポーツ型。

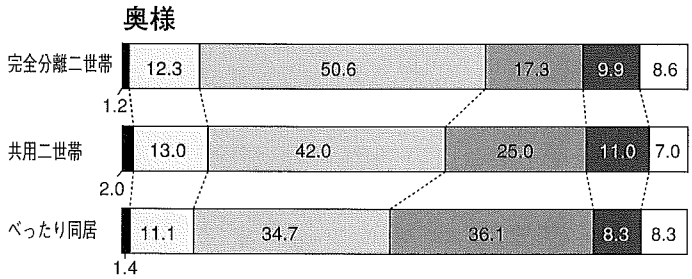
繁華街のデパートでの買い物や繁華街での食事は、ご主人・奥様共に、べったり派より共用派の方が、共用派より完全分離派の方が頻度が高くなっています。特に、習い事やカルチャー、スポーツ、映画などはべったり派に少ないのが目立ちます。
ご主人と奥様を比較してみると、奥様はカルチャーを、ご主人はスポーツを楽しんでいる様子が伺えます。ボランティアはまだまだ浸透していないようです。二世帯派はデパートや繁華街での食事などちょっと遠くへ外出、べったり派は町内会など近くへの外出傾向が見られます。

どのくらいの頻度で外出なさっていますか？

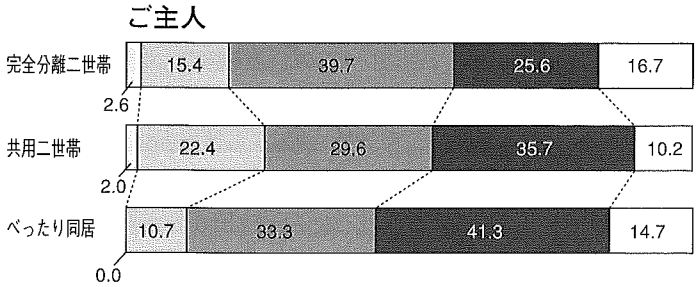
ほぼ毎日
週に1～2回
月に1～2回
年に数回
ほとんどしない
NA

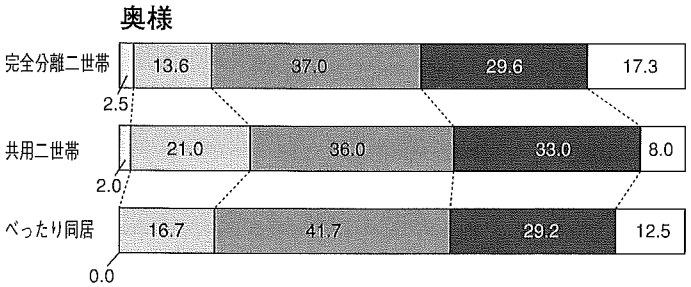
●繁華街のデパート、専門店での買い物



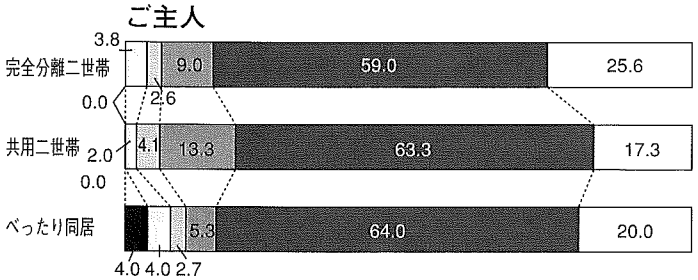


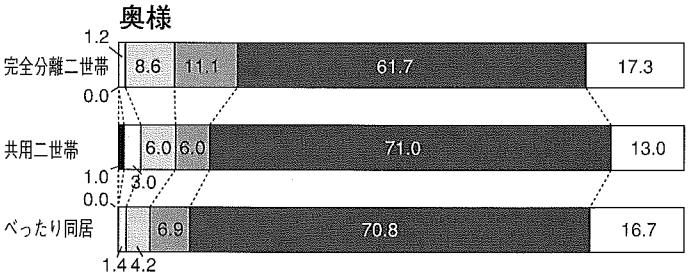
●繁華街の飲食店での食事



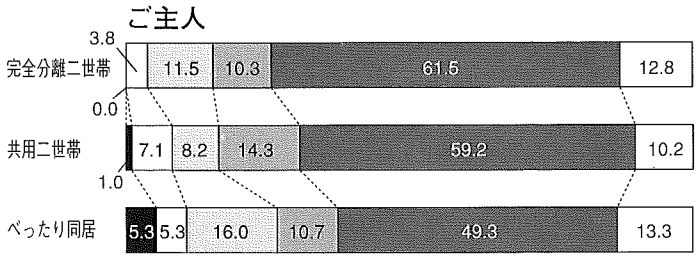


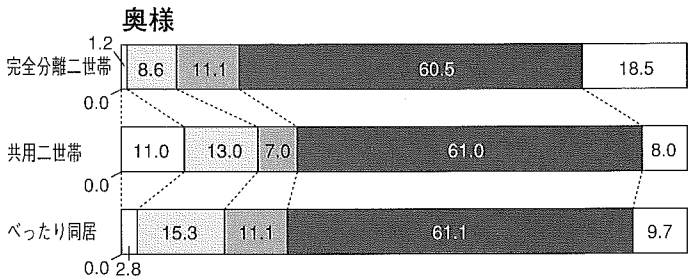
●ボランティア活動



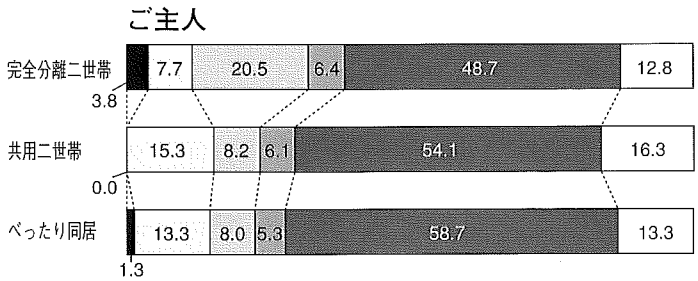


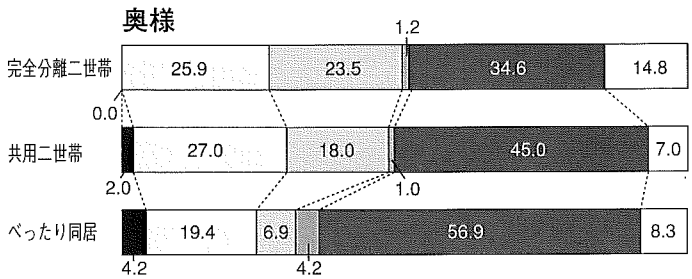
●町内会、老人クラブなどの活動



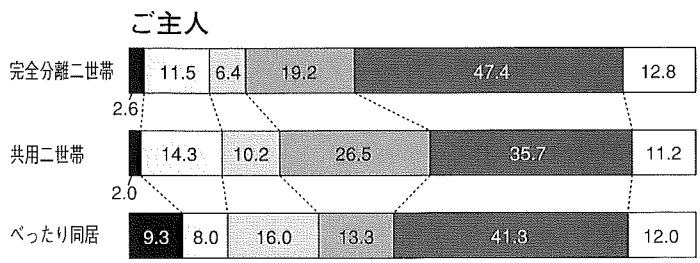


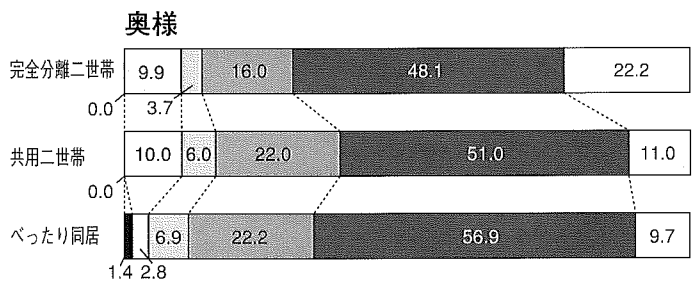
●習い事、稽古事、カルチャーなどへの参加



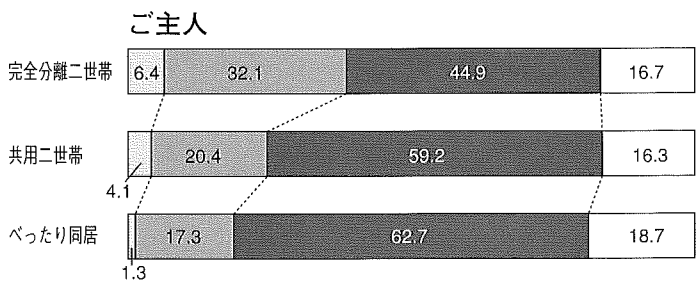


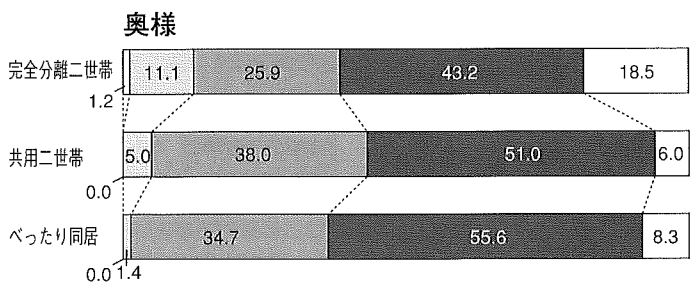
●スポーツ、レジャーなど



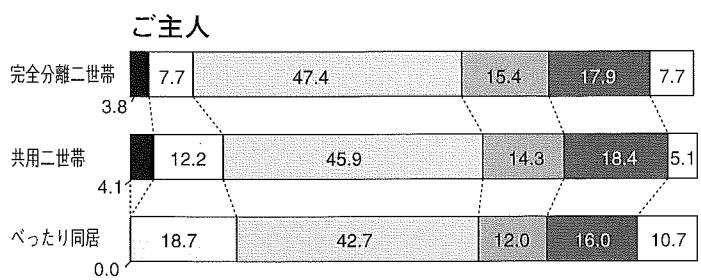


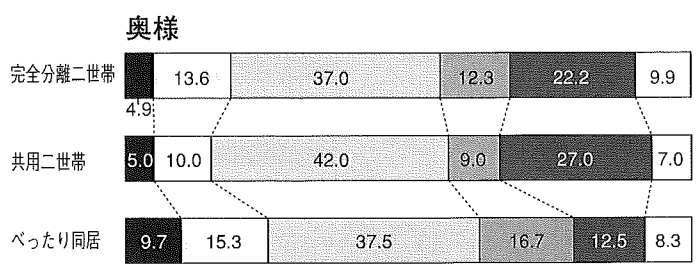
●映画、演劇、コンサート





●病院などへの通院



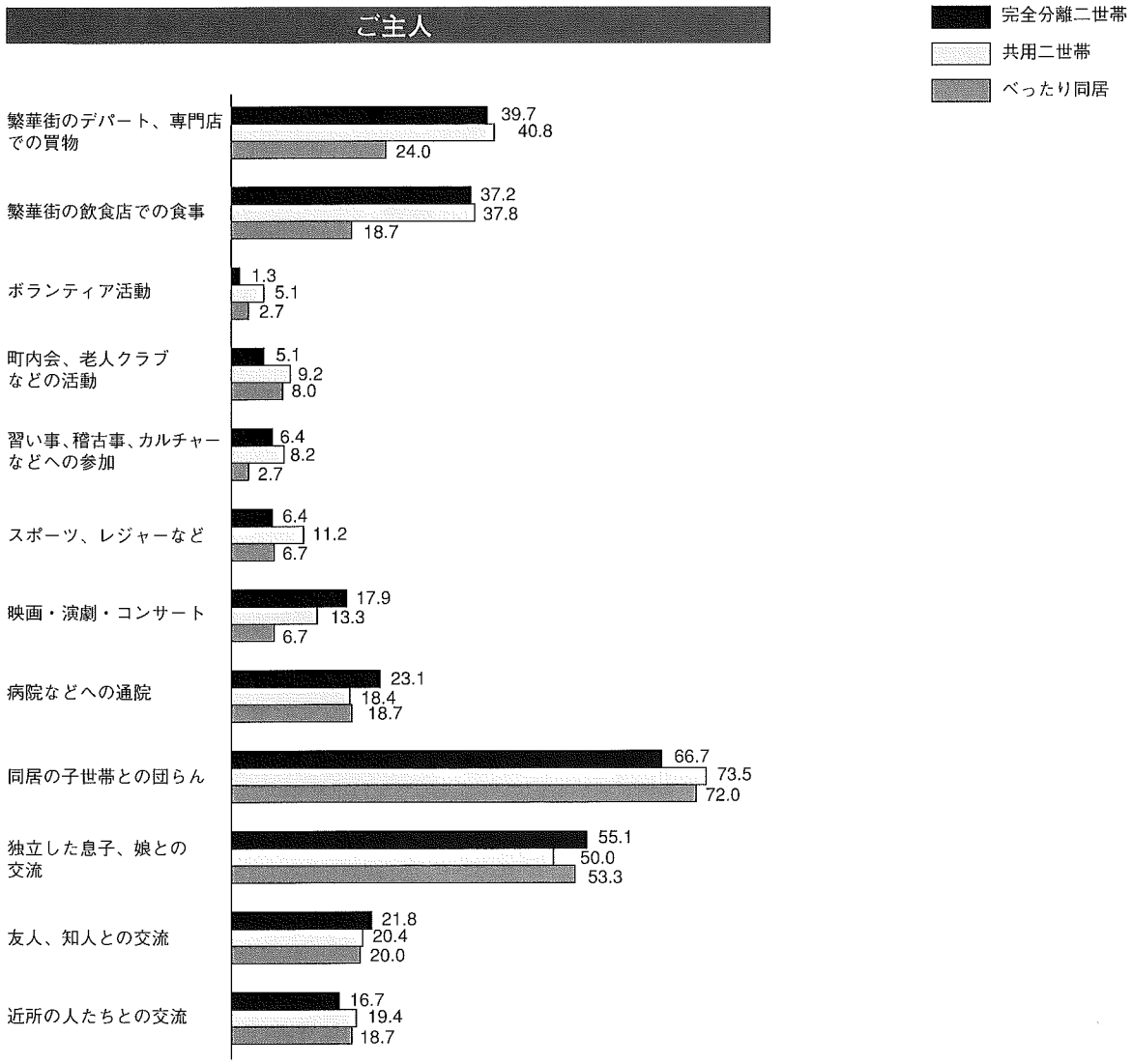


夫婦一緒の行動

夫婦一緒に子供や親戚と交流。二世帯派で一緒の行動が目立ちます。

全般的に見て夫婦一緒の行動が多かったのは、「同居の子世帯とのだんらん」「独立した息子・娘との交流」など。「デパートでの買い物」「外食」などがこれに続いています。
べったり派より二世帯派は、買い物や食事など、たくさんの項目で夫婦一緒の行動が目立ちます。

Q ご夫婦で一緒になさるのはどんなことですか？
（ご主人の回答）

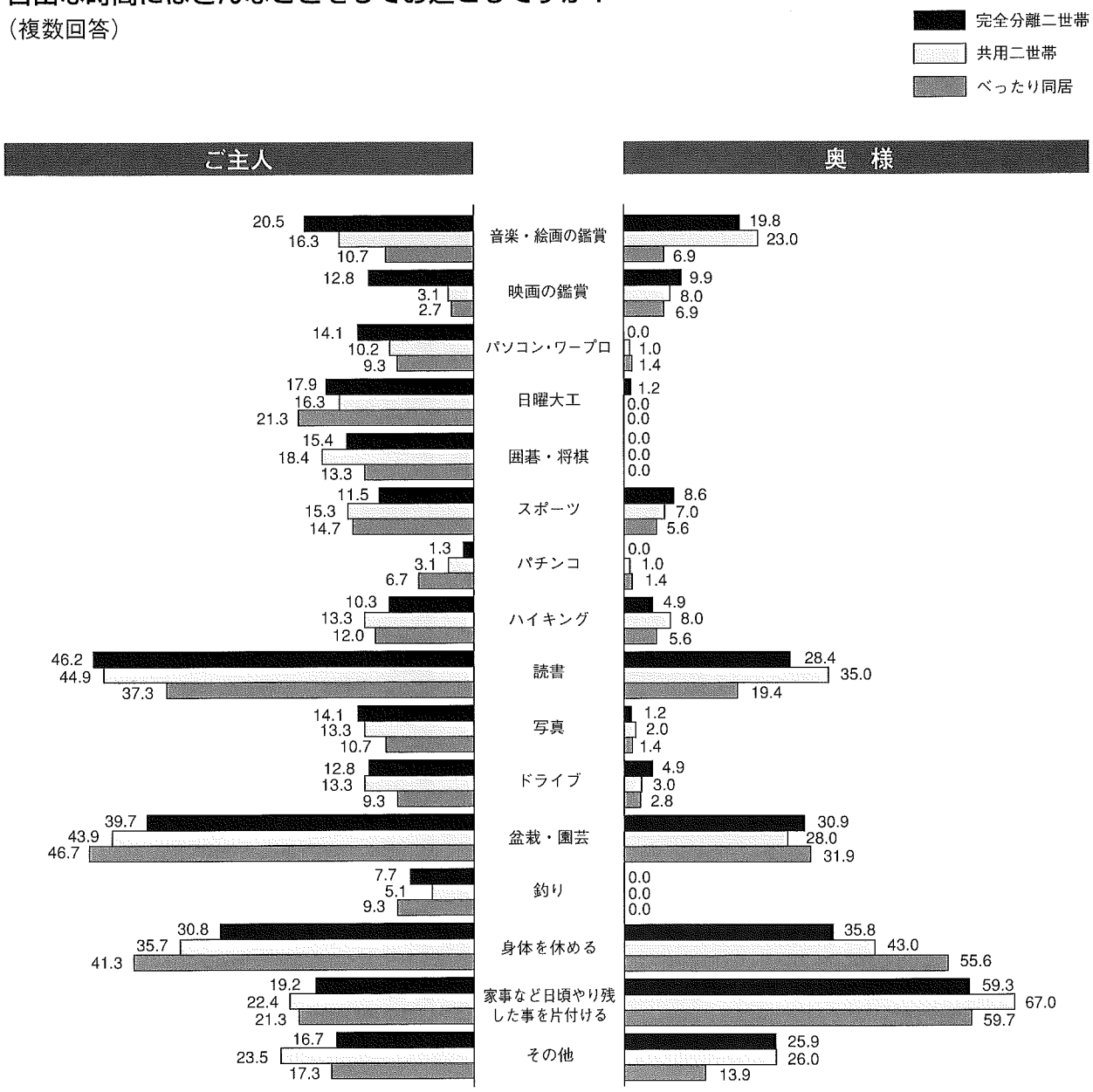


自由時間の過ごし方

ご主人のベスト3は「園芸」「読書」「休息」。奥様のベスト3は「片づけ」「休息」「園芸」。

自由時間の過ごし方は実にさまざまで、親子同居のシルバーは趣味が多彩な様子。特に二世帯派の多彩さが目立ちます。
完全分離派のご主人は「読書」や「パソコン」を楽しむ他、「音楽・絵画」や「映画」などを鑑賞する人が多数。共用派のご主人は「スポーツ」「ハイキング」「ドライブ」などを楽しむ人が他のグループに比べて多く、べったり派のご主人は「日曜大工」「釣り」などが多くなっています。
奥様では、とりあえず身辺をテキパキと片づけ、花や緑の世話をして、ほっと一息つくというのが自由時間の過ごし方のようです。

Q 自由な時間にはどんなことをしてお過ごしですか？
（複数回答）

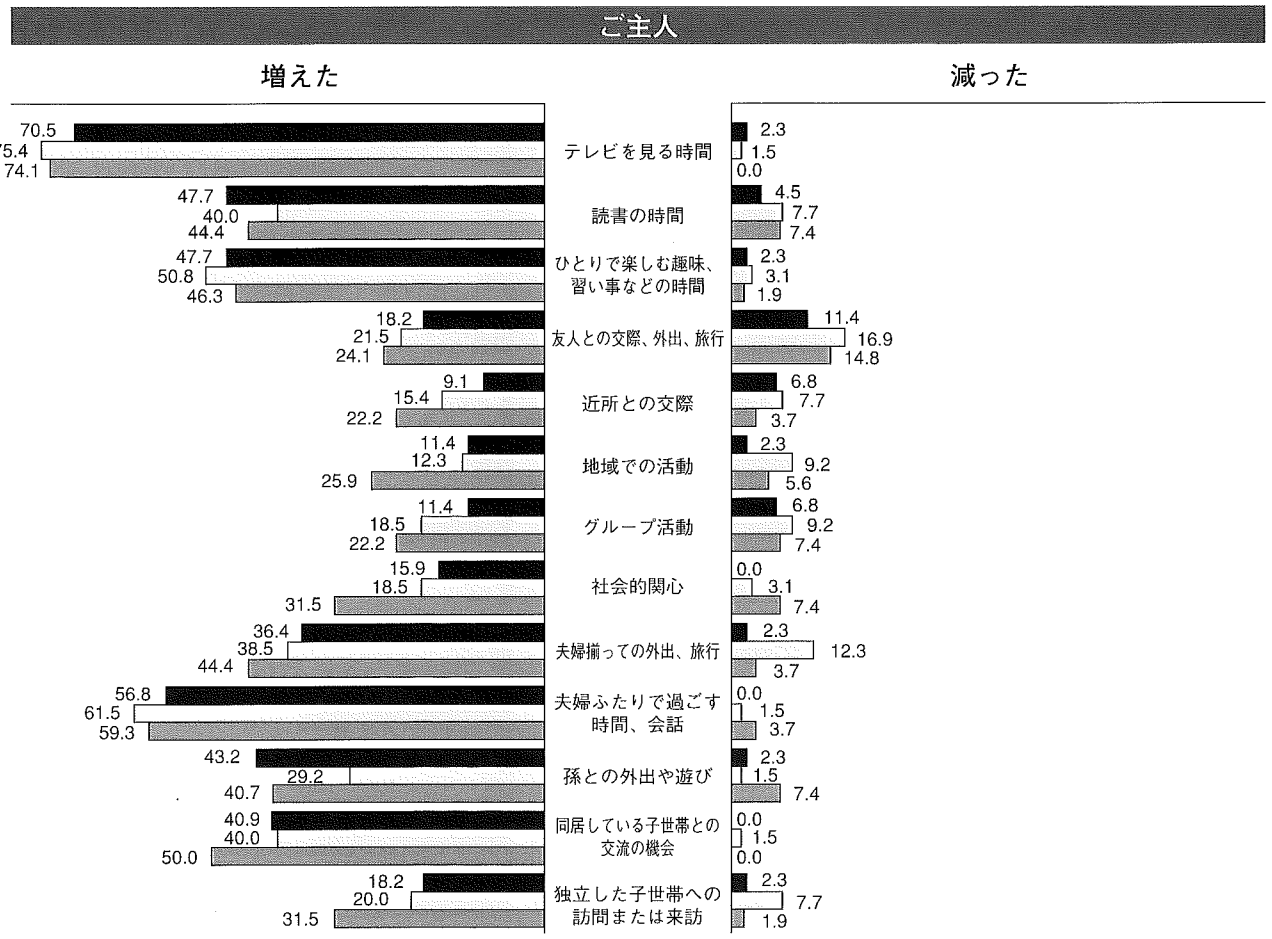


退職後の
生活の変化

「毎日が日曜日」を楽しむご主人。夫婦そろっての活動が増える奥様。

ご主人がすでにお仕事を離れている168組のご夫婦に伺いました。ご主人が退職後増えたとしているのは「テレビを見る時間」「夫婦ふたりで過ごす時間、会話」「ひとりで楽しむ趣味や習いごとの時間」「読書の時間」「同居の子世帯との交流の機会」など。
逆に退職後減った項目は少なく、「友人との交際、外出、旅行」が1割を越えている程度で、ほとんど目立ったものはありませんでした。
べったり派のご主人は、「友人との交際」「近所との交際」「地域活動」「グループ活動」などが増えた人が多く、退職後は地域とのつながりを深めている傾向にあります。

Q ご主人の退職後、生活にどんな変化がありましたか？



退職によって「毎日が日曜日」となるご主人に対し、奥様の事情は少々違っているようです。「ひとりで楽しむ趣味、習いごとの時間」「友人との交際、外出、旅行」「近所との交際」「グループ活動」などについて、「増えた」とする人と「減った」とする人がほぼ拮抗する形となっています。ご主人が家にいることで、自分がより自由に動けるか、逆に制約されてしまうかは、人によって大きく異なるのでしょう。それでも「夫婦で過ごす時間や会話」「夫婦揃っての外出、旅行」「同居の子世帯との交流」などはやはりご主人の退職をきっかけに増えており、第二の人生をご主人とともに楽しんでいる奥様たちの様子が伺われます。
べったり派の奥様のポイントが高いのは、ご主人と同様、「友人との交際」「近所との交際」など。べったり派はご夫婦ともに地域とのつながりを深めていく人が多いようです。
一方、完全分離派の奥様は、「趣味、習い事」「友人との交際・外出」をはじめ、「近所との交際」「グループ活動」など減った項目が多いのが目立ちます。

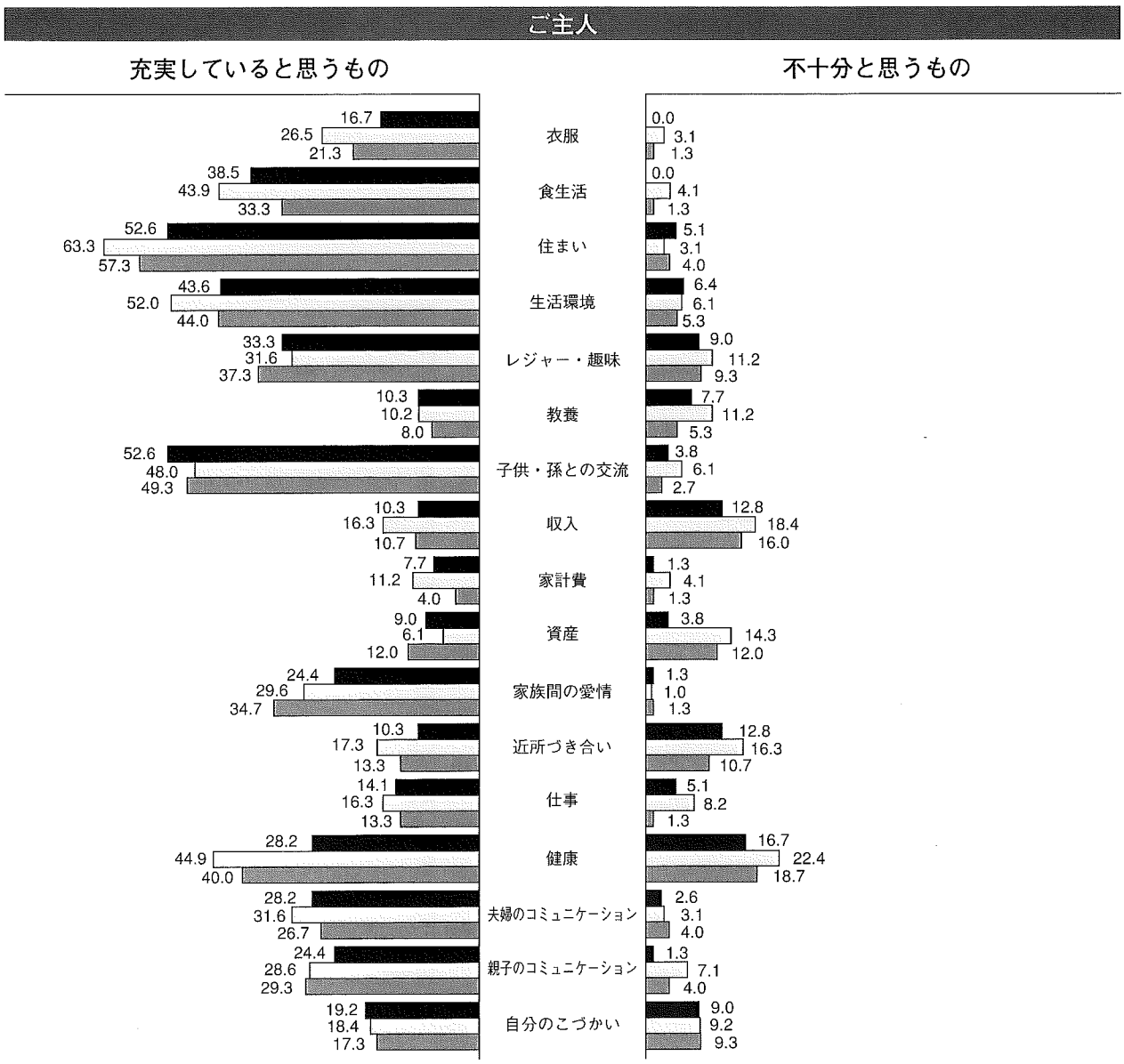
Q ご主人の退職後、生活にどんな変化がありましたか？

生活のなかで充実しているもの、不十分なもの

充実しているのは「住まい」「子や孫との交流」「生活環境」「食生活」。

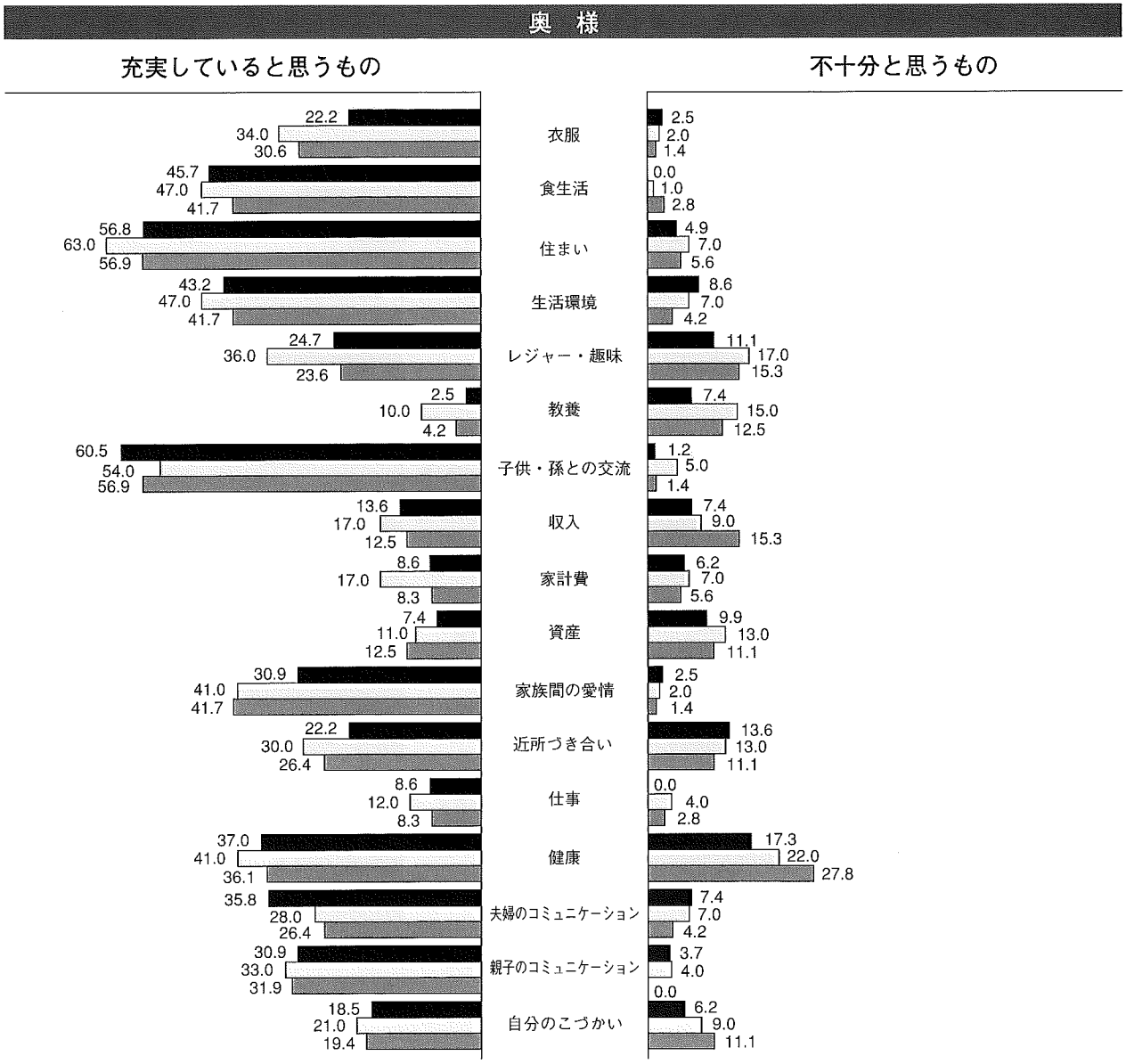
ご主人で充実感が高かったのは「住まい」「子や孫との交流」「生活環境」「食生活」などでした。親子同居の良い作用のあらわれと言えそうです。
共用派のご主人は、「充実していると思うもの」、「不十分と思うもの」共に他のグループに比べ数値が大きくなっています。「子や孫との交流」では完全分離派の充実感が最も高く、選択的に交流できるメリットが感じられます。また、夫婦のコミュニケーションの充実感も二世帯派の方が高くなっています。
夫婦一緒の行動がべったり派より多かったことも関係しているのでしょうか。

Q 現在の生活のなかで充実していると思うものは何ですか。
また、不十分だと思うものは何ですか？（複数回答）



奥様でも「住まい」「子・孫との交流」「食生活」「生活環境」などは4割を越える高い数値。さらに衣食住や経済（家計・資産・こづかい）、家族コミュニケーション（親子・夫婦）、健康など多くの項目で、奥様はご主人よりも充実感が高い様子です。
また、奥様でもやはり「子や孫との交流」は完全分離派の満足度が高くなっています。

Q 現在の生活のなかで充実していると思うものは何ですか。また、不十分だと思うものは何ですか？（複数回答）

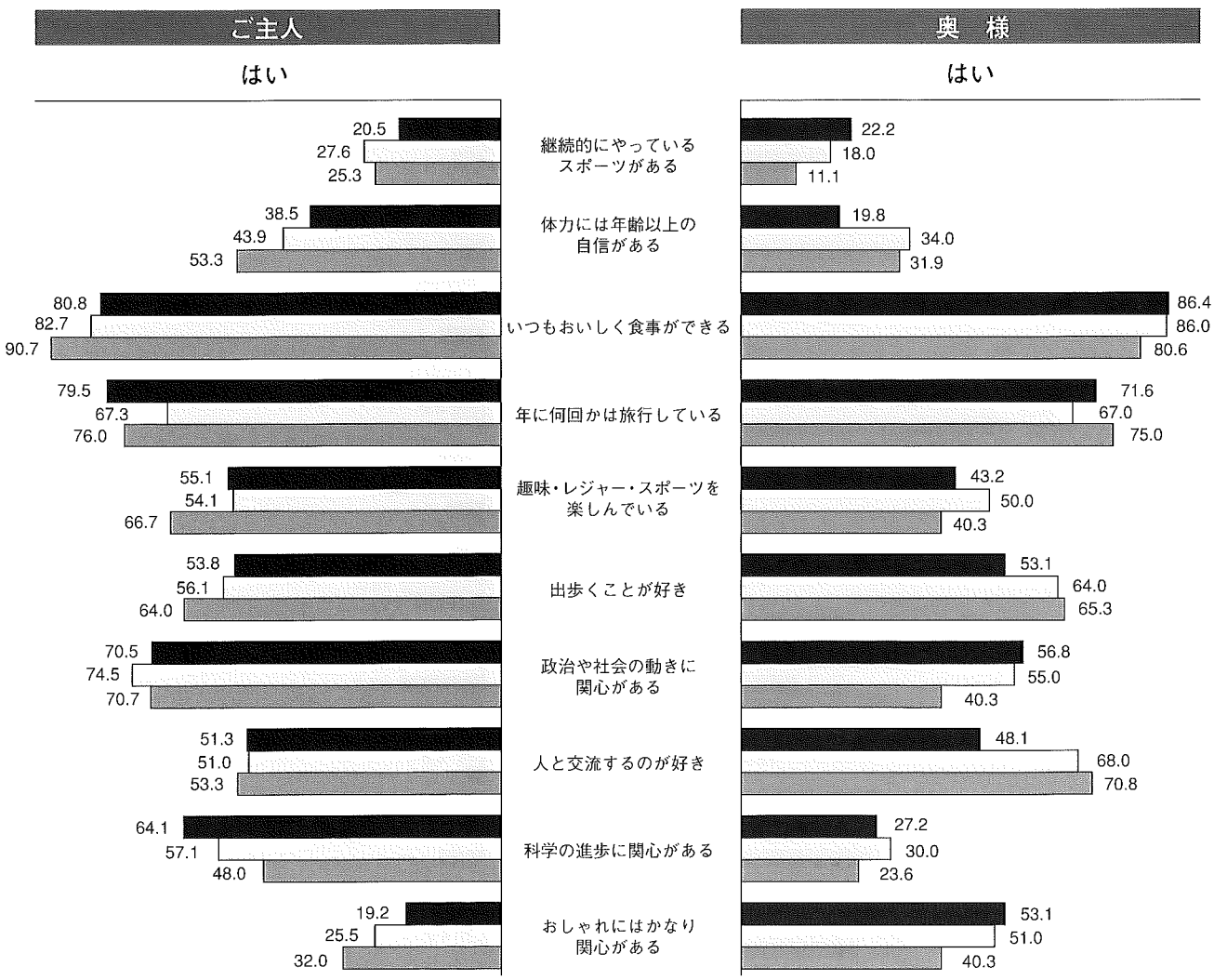


日常生活における積極性

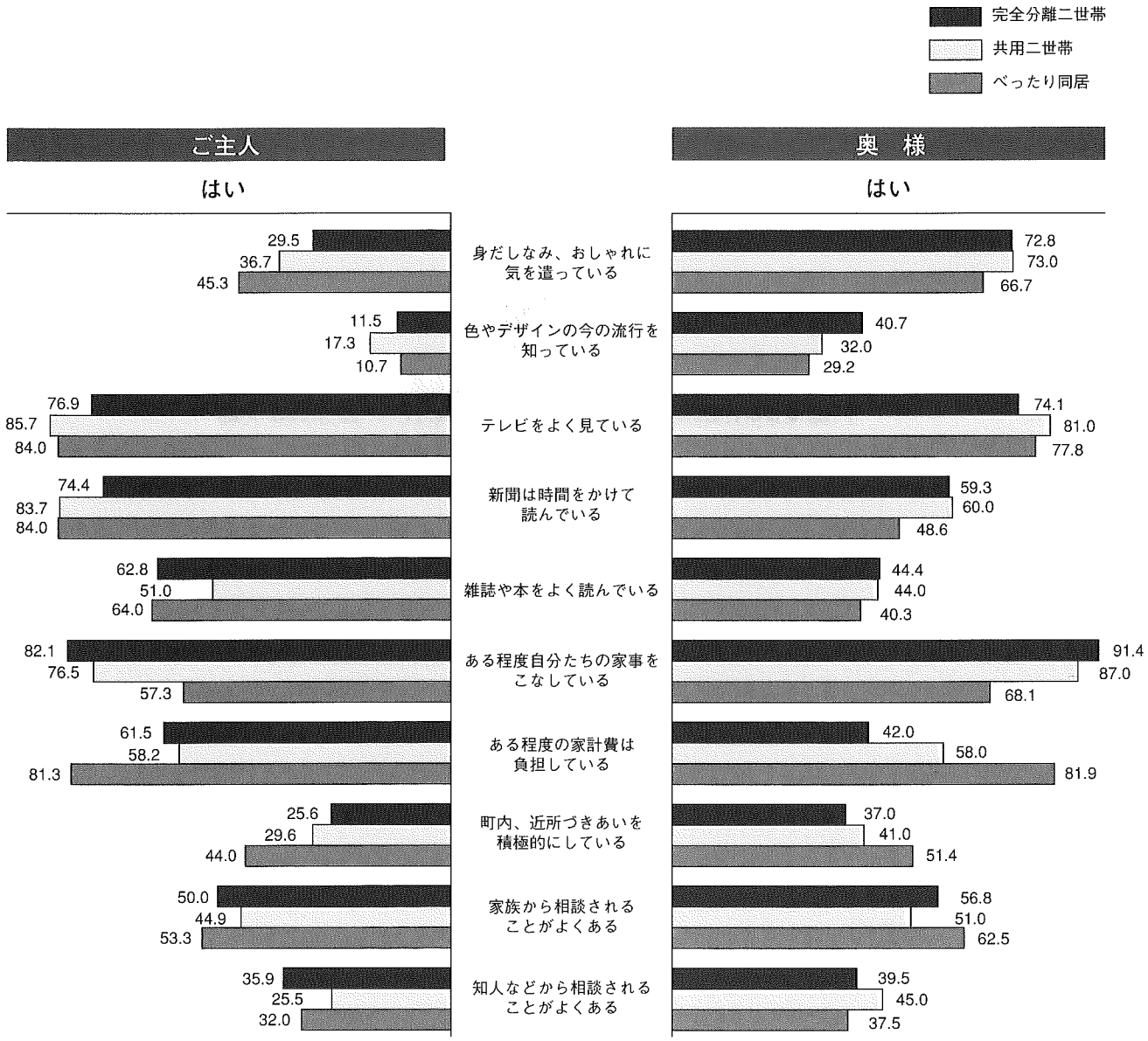
ご主人はべったり派、奥様は完全分離派が積極的。

全般的に、「いつもおいしく食事ができる」「テレビをよく見ている」などの項目が、ご主人・奥様共に上位。３位には、ご主人で「新聞は時間をかけて読んでいる」が、奥様で「ある程度自分たちの家事をこなしている」が続きます。
ご主人を見ると、べったり派の積極性が目立ちます。「いつもおいしく食事ができる」「新聞は時間をかけて読んでいる」「趣味・レジャーなどを楽しんでいる」「出歩くことが好き」「体力には自信がある」「身だしなみやおしゃれに気を遣っている」「おしゃれにはかなり関心がある」「町内・近所づきあいを積極的にしている」などの項目は分離度が低くなるにつれてポイントがアップしています。

Q 次の20項目についてあてはまるものに○をつけてください。
（“はい”のみ）



分離度が高くなるにしたがって上がる項目は、「ある程度自分たちの家事をこなしている」と「科学の進歩に関心がある」など。
一方、奥様は完全分離派の方が積極的。「ある程度自分たちで家事をこなしている」「いつもおいしく食事ができる」「政治や社会の動きに関心がある」「身だしなみ、おしゃれに気を遣っている」「おしゃれにはかなり関心がある」「色やデザインの流行を知っている」「雑誌や本を良く読んでいる」など多くの項目で高数字。
べったり派の方が高いのは「ある程度の家計費は負担している」「人と交流するのが好き」「出歩くことが好き」「町内、近所づきあいを積極的にしている」などでした。



旭化成・二世帯住宅研究所

〒160 東京都新宿区西新宿1-24-1（エステック情報ビル）☎03-3344-7045